



48
あなたのはじめの
保険代理店
グット・ライフ

あなたのそばの
保険代理店
グット・ライフ

marge
マルジュ

カトリックのキリスト教とは、レリア・バーブラタ。ブ
ラジル原産。单丈50センチを超える大型種。著名な蒐集家、
育種家が横浜におられた。名花名品の株分けに与った者が
ここ湘南に多い。夏咲き。星月夜の七夕を望むように開花す
る。クイーンのトリアネは冬の花。自身の達成は叶わない。



こちらは、アウグストゥス
のアウレリウス金貨。
Q. なぜ金貨の顔は
右向きなのでしょうか？

あなたの身近な問題を考えるのが、私たちグット・ライフ
の仕事です。ぴったりサイズの保険をおあつらえ致します

あなたのそばの保険屋さん 神奈川・平塚・立野町39の5

八間通り沿い・済生会病院並び北八八歩



WE GOOD LIFE

グット・ライフ

goodlife@cosmos.ocn.ne.jp

Tel 0463-37-1955 みなくごーごー

Fax 0463-37-1966

いわれてみると、ちょっと寂しいことがある。「床屋さんの頭は、だれが刈るのか。」「床屋に決まっているからだれが？」もしかしたら、自分でやるのかも、と思いませんか。毎月まいつき、床屋さんの椅子に座って、何度も感心するのが、ひげ剃り。自分も毎日まいにち力ミソリをあてる。二枚刃が五枚にならうが、あごを切ってしまう朝がある。よくまあ、上手にひとつの顔を剃れるもんなんア。ひょっとすると、頭の後ろに手を回して、刈れるんじゃないかな。「かんたんですよ、ほーらいほーらい」とちょきちょき鍔を握ってみせるかもしれない。だつて。モグリでもブラック・ジャックとかいう医者は、自身に局麻をかけ、鏡をしながら腹を切つたっていうじゃないか。理容師は外科医の親戚筋だし(店頭で回ってる、あの赤白青のトリコロールは、動脈包帯に静脈のシンボルの名残だしね)。それとなく聞いてみると、さすがにひとさまが刈るそうだ。それが引退を心に決めた途端、踏みかためた記憶が瓦解したそうである。棋士も駒をおく決断をすると、パチパチと再生できた棋譜がガラガラと倒れる。と名人米長(よねなが)は言う。私は、名前は漢字がないと覚えられない。その上、生年月日の6桁と電話番号みたいに積むが三つ組だった。いまや、無残。携帯のひと桁増しで、容量

が脳内のスペースからあふれた。市外局番を失い、住所への連携が切れる。元号が強いられ、家族の齢関係の了得をこわした。頬には集合写真。ご家族ごとに脳裏のアルバムに貼りついてる。それがこの頃、セピア色になってきた。お願いします、お嬢さま方々。お歳に逆らわずシミンバカラスシワをそれなりに増やすよう努めてくださいませ。街中で会釈されても、きょとんとしゃいます。たおやかな聲音でも、分かります。「イセダさん」とあかるくほがらかにこの上ない笑みをたたえ、声掛けくださいませ。電話口でも、父子の声を取り違える失礼がしばしばあります。なぜか、母娘は間違いませんから。リーン、リーン。リンリンリン。この鳴りかたは、男。やはり。スズキと名乗った。思いあたらぬ。土曜六時過ぎ、艶冶に逢う魔が時である。「今、いいですか」と。固定電話で受けているのだから、いいに決まっちゃよる。何度もかの今だ。彼の定時の刺交換の立ち話で、よせばいいのに、セミナーのあれこれを注進した。実直なお人柄が私におせつかいさせた。素直な学び上手は得をする。やられ、致し方ない。成り行きで、コンサルをコンサルする。小原のお祭りで待合室。スズキさん一家とヒール片手に焼きソバつきながら、数刻。色白の九州女に父親似の四つ手。スナップ写真がまた一枚。ほんわか、いい絵が脳裏に残る。景色に私が映えるを尊ぶ。

We wish "May be your good Samaritan every night and day."

◇ 「太陽と北風」「蟻とキリギリス」の寓話で有名なイソップ物語に「ロバと犬」がある。ご主人がお出かけの時いつも飛び付いては頭を撫でられている犬を見て、自分もあのように可愛がられたいと思ったロバはある日それを実行して大目玉を喰らう話だ。

◇ 身の程をわきまえないで、寵愛される他者を見て嫉妬し、愚かな行動に走るロバ、結末は哀れであった。

◇ 現代はインターネット、スマホ、タブレットなどの新鮮な響きと共に脚光を浴びている情報化社会であり、コンピューターが必需品化し誰もが使える道具になってきている。

このコンピューターは約70年前の1946年、世界最初の「電子計算機ENIAC」としてアメリカで誕生した。計算機はその後、情報理論や論理回路の研究などが進み、半導体をベースにした科学技術の協力を得て、驚異的な進化を遂げた。そして今では超大規模集積回路の登場で装置の小型化やデーターの高速処理が可能になった。コンピューターは誕生してから僅か70年で社会の主役として躍り出たのである。

◇ 今では、加工・蓄積・検索・伝達の機能を持つコンピューターを判断の出来る人工知能ロボットにしようと夢見る人もいる。確かにチェスや将棋ソフトの人間対決で人間が負けた記事もあった。人工知能も良かろう。しかし、たとえ人間の能力の一部を機械に置き換えたとしても、人工頭脳に人間の代替はできない。人間の与えた機能と情報の範囲内でしか働けないのだから。

◇ コンピューターは道具である。支配者は人間である。使い難いソフトを駆逐し有能なソフトを採用すればよい。それは当たり前のことで、人間が不便な道具に振り回される態は高度な情報社会の反映とは言えない。

◇ 人真似でない、分に応じた自分流の行動は、それこそ自分の証である。

☆ 私のベスト・オブ 塩野七生
二十代でイタリアに飛んだ塩野は、ひょんなことから筆を執る。ぼつぼつと書き、日本に送った。目をかける編集者と会い、以来在伊の作家として活躍する。二十年は読まれる本を書くという志をもつ。著作のなかより、お勧めの三冊をえらぶ。
『ローマ人の物語』より「ユリウス・カエサル」と浩瀚な尤物わが友マキアヴェッリ』(いずれも新潮社)

「汝自身を灯火とせよ。犀のごとく強い歩め」

"Be a light to yourself. Walk alone like a rhinoceros."
Gotama Siddhartha
ゴータマ・シッダルタ
英語は、アーナンダー・クマラスクミーの「アーリヤ」より

[たおやかなる男の子らへの手紙]

あなたがた男子に羨気がない。雄飛するのは女性。男性は伏せっているのだろうか。はたちまえで、そんなんじゃ、自分がたつ朝はいつになるのか。新自由主義とやらで、貴族制の遺るイギリスより階層固定がむごいニッポン、その現状に自縛自縛されていないか。馬齢を重ねる私だが、私に異議申立する怒れる若者や、いずこ。

以下は、会社経営者らをまえにしてのスピーチ原稿。他誌より転載。若輩の私からの、後進を育てるべき年長者への喝。

* * *

休日は読書に充てる方がおられよう。私はこの正月、塩野七生『皇帝フリードリッヒ二世の生涯』(新潮社)をたのしんだ。きっと同好の氏がおられるだろう。

春、ひとが動く。期待に胸はずませてとの紋切型が似つかわしいのは、やはり十七、八のころではなかろうか?

ハーバードという大学がアメリカにある。創立は合州国の建国に先立つ。アメリカにハーバードがあると言うのなら、正確ではなかろう。

昨今、けつたまにランク付けが流行っていて、世界の大学ランキングなどというきつかないものもあるそうだ。ランク付けされる前から、ハーバードの声望は高い。ひとえに学生の選抜に際しての揺るがぬ姿勢にあると仄聞する。

オックスフォード、ソルボンヌに負けず劣らず、俊秀と自負する若者が満天下から志願してくる。異才でも十八ともなれば、数学や物理の分野なら、学の最先端を遠望しつつある齡。教程は了えている。十八で学部生なら、「デキル、が、並み」なのだ。世界には、お勉強がおじょうず、だけなら、星の数ほどだろう。

さて、その選抜の要綱。「斯界のリーダーとなりうる人物」なのだろう。リーダーは待望しても出てこない。あるいは、社会が必要とする数に足りない。だから、育てる。生徒会にクラブ活動、机上以外のアクティビティを重視するのだろう。ペーパーだけなら、イエールとかオックスフォードなどよその名門に任せておけばよろしい、と考えている。紙で評価できる偏差がプラスに位置する者を、プラスの偏りをより高めるのなら、高校の延長でしかない。その者が、われらが未来を構想できるか、将来できるかと問われれば、できないというのがハーバード

♡ 自動車保険は、ロード・サービス等を拡充。使い勝手がよいと、好評です。♡

謹啓、平素は格別のご高配を賜り、ありがとうございます。本年も、自動車保険のご契約者みなさまの一
年間の無事故を御祈りいたします。祈念の気持ちを込めて、素品を用意いたしております。ご契約の継続手続
きの際にお届けいたします。小社からの花一輪をお受けとりいただければ、幸いでございます。店主 敬白

【お届けの押し花の葉は、山見央園作業所ひばり乃シップ作成。手作製品多款取扱。各種製作応需。平塚市御殿1-17-1 ☎ 0463(31)0723】

大の見識。だから、リーダー育成をするのだそうである。

そもそも、やりたいことが見つかり、やれそうかなという感触をもった学生は、イエールだろうがスタンフォードだろうが、学生証を放る。もっとも優秀な学生の卒業後は起業家[アントレプレナー]が並みの感覚の風致である。

この姿勢は、世界企業巨大企業にも相通する。異業種他社で勇躍するトップを提供する、リーダー輩出で著名なGE(ゼネラル・エレクトリック社)。発明家エジソンが創業という筋目故なのか、社業では果敢に挑戦する者を好むという。新規事業の見切り発車はとうぜんの前提。先行がビジネスの肝要な成因であり、利得を生むとの経験則にもとづく。事業計画の詰めの甘さは容赦なく叩かれるが、瑣末へのこだわりと評価されれば、落伍の烙印が捺される。人に、まず課せられるのは、事業におけるヴィジョン。いかにヴィジョナリたるリーダーに社内外の他者が、悦んでついていくか、が重要な指標だと聞く。この試練が入社数年後の二十代から始まる。GEの社長就任はたいてい四十半ば。二十年にわたる鍛錬に選抜。そして、このトップ・リーダーは、爾後二十年間の経営の斧をふるう。



△ フリードリッヒ II の横顔
を刻むアウグスター・レ・金賞

そう、ここはアメリカでない。ハーバードやGEを鍛えた地と水はちがう。いっぽう、「アメリカはやはり違う」「あっちは進んでいる」とのたもう帰朝者にもうんざりしている。二、三の例なので管見なのだが、が、憂慮するのは、欧米文脈の信奉か国粹か、という極端な心性が精神史的にはいまだ鍛造されているらしいことのほうである。国費や給費の留学生であるのに、そうなった手合と立ち会うと、みように子供っぽい驕慢[ヒュブリス]を感じる。緊迫感に乏しい。これは、三十年以上まえ、米国学者の本『ジャパンアズ ナンバー 1』という書名に浮かれた幼稚さそのままか、頑冥さながら。旧態依然と見受ける。

やはり違うのではないか。火はおなじはずだ。

こわばり、なまつた心性を革めるには、ふいごが要る。

◇ ◇ ◇
人界に、リーダー不要な組織はあるのだろうか。

◇ ◇ ◇
史上の英傑に惚れて書く七生女史。つぎの男は誰か。ウルビノのフェデリコ・ダ・モンテフェルトロあたりでは小粒か。いずれ、籠絡拉つする手練手管をたのしませてくれるはずだ。

